



旅の道づれ

おのりたん作絵



学校から帰るとほのかは、ただいまも言わず、ランドセルを玄関に放りだして、おばあちゃんの部屋に行きました。さっと襖を開き、息せききって尋ねます。

「おばあちゃん、どこ行ってた？」

「あら、まずただいまか、おかえりって言うもんじゃない？」
おばあちゃんは、ぷんと口をとがらせません。

ほのかとおばあちゃんは仲良しです。なのに昨日からおばあちゃんは何も言わずにでかけたので、ほのかは不満です。でも確かに、挨拶は大事。ほのかは、

「じゃ、おかえりてただいま。富士子さん、どこに行ったらした？」と言い直しました。

「まあ、ご丁寧に、いいご挨拶。こちらこそ、おかえりて

ただいま。お土産買ってきましたよ、はい」おばあちゃんは、機嫌をよくしてにこっと、ほのかの手にお菓子乗せました。定番の田舎のお土産の甘いお煎餅です。

「あ、『旅の友』。おじいちゃんの田舎に行ったらした？」

「当たり前。法事」

「で、どうだった？ 面白いことあった？」

ほのかが旅の友をパリッとかじると、おばあちゃんも自分の分をパリッとかじって、いまいまげに言いました。

「あるわけないでしょ、法事だもの。退屈で退屈で死んでしまうかと思っただわ」

ひいおじいちゃんの五十回忌。おじいちゃんが長男なので、行かない訳にはいきません。でもそのおじいちゃんも、おじいちゃんを産んだひいおばあちゃんも、とうの昔に亡